

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2015 Vol.25

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL ▶048-798-1751 (代)
 TEL ▶0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX ▶048-798-0075
 URL ▶http://www.matsunaga.gr.jp

感動創造建設会社
 株式会社 松永建設

～地域の活性化を核とした土地活用～

見据えよう、未来都市創造



▲相続税対策も兼ねオフィスビルを改修、自宅へと生まれ変わった長野氏所有のビル。二世帯住宅に親子が同居することは相続税軽減の大きな要件

◀昨年9月に岩槻区本町1丁目に完成した賃貸マンション「グランドソレイユ」。障壁を乗り越えて土地活用を果たした

地域の発展と土地の活用は切っても切り離せません。今回は弊社のプラン「ABオービット」を建設し、賃貸マンション経営を始められた岩槻ゆかりのお客様より、岩槻という土地が秘める可能性と将来の発展性、そして上手な土地活用についてお聞きしました。

岩槻に秘められた大きな可能性

「私の曾祖父が武州鉄道の関係者でした。岩槻と東京を結ぶ地下鉄7号線の延伸は、いわば親子4代にわたる悲願なんです。昔、岩槻に通っていた武州鉄道はご存じですか？」

そう語るのは、岩槻の地で古くから日用品や雑貨などの総合卸を営む(株)長野商店の長野晋睦社長。長野氏はさいたま商工会議所岩槻支部長も務められ、日々、地元活性化のために多方面にわたりご尽力くださっている



▲株式会社 長野商店 代表取締役社長 長野晋睦氏。氏はさいたま商工会議所岩槻支部長や、公益社団法人 春日部法人会岩槻支部 副支部長を兼務するなど、地元の発展・活性化に欠かせない名士

方でもあります。

武州鉄道は大正13年(1924年)から約15年の間、蓮田～岩槻～神根(川口)を結んで運行された民間の鉄道。東京と日光を結ぶという壮大な構想で始められたものでしたが、資金難から上記区間以上の延伸が進まず、昭和13年(1938年)、惜しまれながら姿を消しました。とはいえ「地元の足」として重宝されたことは事実で、当時の岩槻には鉄道の路線が通っていなかったことから、武州鉄道開業の記念式典には開通を待ち望んだ多くの人々が詰めかけたそうです。

その「武州鉄道の夢よ、もう一度」と岩槻をはじめとするさいたま市東部地域一帯が念願としているのが、地下鉄南北線～埼玉高速鉄道線を浦和美園以北へと延伸させる「地下鉄7号線延伸計画」です。東京都心部への直通路線が叶えば、沿線の発展が大いに期待できます。

「岩槻という街は、今のままでは非常にもったいない」と長野氏は強調します。「自然がそこそこにあり、歴史

的にも由緒ある土地柄。うまく整備ができさえすれば、人を呼べるような観光資源がたくさんあります。区民の憩いの場になっている岩槻城跡をはじめとして、江戸初期から時を刻んできた時の鐘、創建が約1400年前の飛鳥時代までさかのぼるという久伊豆神社、鎌倉時代からの観音信仰巡礼の札所として有名な慈恩寺……ちょっと挙げただけでも魅力的に感じられる名所名跡がたくさんありますよね。そして人形のみちとしての誇り。もっと岩槻の魅力を世の中に知ってもらえれば、観光客はきっと増えるはずですよ。また、企業誘致につなげることもできるでしょう。そうすれば格段に活気のある、暮らしやすい街になると信じています」

延伸計画を実施へと進むためには、ここ1～2年がカギ。地域住民の願い、そして親子4代にわたる夢の実現に向けて一段と積極的な努力を惜しまないと、長野氏は心意気を語ってくださいました。

地域の未来に欠かせない土地活用
 発展の可能性を大いに秘め、街の価

値が上がろうとしている今、できれば考えておきたいのが土地活用です。その点でも長野氏は先んじています。長野氏は、岩槻駅に程近い地域に所有していた土地にマンションを建設し、このたび賃貸経営へと踏み出しました。昨年秋口に竣工した、「駅に近く瀟洒な」というコンセプトの単身者用マンションは早くもフル稼働しています。また、所有していたオフィスビルも改修し、高齢のお母さまと同居する自宅へと造り替えました。利潤を生み出す有効な土地活用と、将来の備えとしての相続税対策。その2本柱となる物件が上の写真です。

明るくクリーム色の外観が目を惹く、瀟洒な賃貸マンション「グランドソレイユ」。しかし、所有の土地にはとある障壁があり、実は即座にマンションを建てることのできない事情がありました。問題を乗り越え、どのように竣工に至ったのかを、次面でももう少し詳しくご紹介しましょう。

見据えよう、未来都市創造 有意義な土地活用とは？

立地に即した活用提案が必須

ご承知の通り、土地という資産は「ただ所有しているだけ」では何も生み出しません。活用してこそ利潤が生まれます。今回、長野氏がマンション経営に充てた土地が抱えていた障壁——それは、道路が接しておらず、法律上、賃貸住宅などを建てるのが叶わないことでした。そのためこれまで、駐輪場として市に貸し出すなど、ごく限られた活用しかできずにいたそうです。

「岩槻駅から徒歩3分という絶好の立地でありながら、接道がないことで、いわば塩漬けですね。長年の懸案でした。それを解決してくれたのが松永建設です。過去いろいろな大手建設会社が『土地を活用しませんか？』とセールスに来ましたが、どれも魅力的なプランを提示してくれず、改めて企画



▲長野氏と弊社担当の橋本裕樹執行役員不動産営業部長

力・提案力の大切さを実感しました」

長野氏の言う「提案力」とは、立地の特性を見据えたプラン作り、そしてお客様の立場に立った発想でした。弊社が行った企画提案の内容を見てみましょう。土地活用のネックになっていた接道の問題を解決するために、まず道路を造ることから弊社が提案したことは「非常に大きな意味を持ちました」と長野氏。マンションを建てられる環境をまずは整えることからスタートしたのです。その上で出された提案は単身者向けの物件。

氏を担当した弊社執行役員の橋本に狙いを聞いてみると……。「駅近で利便性が高いことは、何より若い単身者が求めるポイント。第一にそこを訴求し、さらに付加価値を出すために、各戸1Rよりももう少し延床面積を広げて1LDKに。『家賃は少し上がるけれど豊かな暮らしが送れそう』と感じられるような間取りと広さを各戸に持たせるプランを提案しました」

ちなみに、これが駅から距離がある土地であれば、駐車場完備で若年ファミリー向けの各戸2LDKのマンションか、あるいは、土地の広さによっては需要が急増している「サービス付き高齢者向け住宅」の建設を提案してい



▲立地の入居者特性を徹底リサーチした結果、グランドソレイユでは1LDKで40㎡と広めの居室に



▲グランドソレイユ
(岩槻駅徒歩3分/RC造3階建/
1LDK12戸)



▶AB オービットではエントランスの御影石の化粧張りが標準。分譲マンション並みの高級感があふれる

ただろうとのこと。つまり、土地活用の形は一樣ではなく、立地や環境の分だけ方策があり、それをお客様の所有する土地に合わせて提案することこそ重要なのです。

信頼関係こそが活用の成功を生む

また、弊社の提案は「収益性が高かったことも大きな魅力に映った」と長野氏。「年12%前後の利回りを下回ることがないように、という点から発想をし、プラン作りをしてもらったのは心強い。にもかかわらず建物は頑強な鉄筋コンクリート（RC）造でしょう？ セールスに来た建設会社の中には、収益10%を確保したければ（堅牢性・耐久性の劣る）軽量鉄骨造で建てるほかないと言ったところもあったのに、です」

竣工から半年。早くも長野氏の経営する『グランドソレイユ』は満室と、上々の滑り出しとなりました。「賃貸

とは思えない見映えも入居者に好評ですよ」と長野氏もうれしそうです。最後に、氏には土地活用の先輩としてアドバイスを伺いました。

「建設会社を選ぶ際には、やはり何より『信頼できそうか？』ということ基準に考えるべきでしょう。会社としての信用性もありますが、私はむしろ『この人とならば信頼関係を築いていけそう』と思える営業マンとの巡り合わせを大事にしたい。こちらは家族構成から資産から、何から何までを明かそうというわけですから。多額の借金を負う不安などを払拭してくれるだけの安心感もそうです。顧客の立場に立って親身に考え、一緒になって土地活用を成功へ導いてくれる、人として信頼のおける相手をパートナーとするよう、よく吟味してください」

相続税の節税には「賃貸物件」「サ高住」建設で対策を

今年1月からついにスタートした相続税の基礎控除の引き下げ。従来「5000万円+（1000万円×法定相続人の数）」だった基礎控除が「3000万円+（600万円×法定相続人の数）」へと引き下げられた現在、「対策をとってなければ……」という後悔の声が多数聞かれます。「わが家のケースではどうも相続税が課されそうだ」という方は、ぜひお早めの対策をおすすめいたします。

最も手軽な対策は、相続税の対象となりそうな宅地に二世帯住宅を建てることですが、中には、現在お住まいの宅地以外にも土地などの資産を所有されている方もいらっしゃるでしょう。そうした場合には、より積極的な節税の方策が欠かせません。賃貸物件を建築・経営する、あるいは慢性的な不足に陥っている介護サービス施設を建設するなど、土地活用による節税はいかがでしょうか。

松永建設は、鉄筋コンクリート造の高品質物件ながら圧倒的に安価な建築コストを誇る物件が建てられます。賃貸経営ならABオービット、介護サービス施設（サービス付き高齢者向け住宅）ならABライフでぜひ早めの節税を！

お手伝いします！

「生産性向上設備投資促進税制」で設備投資がそのまま減税に！

「生産性を向上させるため」と認められた設備投資に関しては、その投資額が減税になるなどの優遇税制が現在、実施されています。平成28年（2016年）3月31日までに設備投資を行えば、その分が「即時償却」か「5%の税額控除」に。それ以降～平成29年（2017年）3月31日までに行えば「50%の特別償却」か「4%の税額控除」になるメリットの大きな優遇制度です。生産ラインの改修や新型機械導入に伴う工場の増改築、店舗改修や新店舗出店など、業種や業態が問われない、使い勝手のいい制度として注目を浴びています。プランニングからお手伝いさせていただきますので、ぜひご相談ください！

お客様の
ご紹介

新施設オープン！要介護も介護未満も、地域ぐるみで支え合い 社会福祉法人 欣彰会様 『敬寿園七里ホーム』



▲2～4階のユニット型特別養護老人ホームはすべて窓付き個室。バルコニーがぐるりと各階をめぐる個性的な造りとなった。写真右上は南面から見た外観

さいたま市見沼区大谷の地に昨秋、高齢者総合サービスセンター『敬寿園七里ホーム』がオープンしました。「高齢者総合サービスセンター」という、わかるようでわからない表現に戸惑われた方もいるでしょう。「何する所？とまず、お客様が興味をもってくださいれば、この命名は成功といえます」と平川汀子施設長。法人の開設理念が名称に凝縮されているようで、ここでは介護未満から要介護まで、介護や福祉に関わる多様なサービスが受けられる施設です。

まず2～4階は全室ユニット型個室の「特別養護老人ホーム」、1階では「デイサービス」や「小規模多機能型居宅介護（地域密着型）」といった介護サービスが提供されるほか、在宅介護の心強い支えとなる「訪問介護」のステーション、ケアマネージャーや保健師が生活相談や介護相談にのる「シニアサポート（地域包括支援）事業」のステーションなどが併設されています。また、コミュニティの拠点となる「七里地区社会福祉協議会」の事務局も同じ建物内に。

こうした多機能な施設を開設した理由を「社会福祉法人を名乗るのであれば、相応の役目を果たすべきですからね」とこやかに、そしてきっぱりと



▲1階デイサービスのスペースも南向きで広々。鉄筋コンクリート造ならではの大きな空間は、ゆったり動線の欠かせない福祉施設にうってつけ

語る平川施設長。「超高齢化社会が進んでいますが、だからこそ必要なのは長い目で物事を見ること。介護が必要な方向けの施設だけあれば事足りるという考えでは、もうダメです。介護未満の方たちができるだけ健康なままで暮らしていけるシステムをどう作っていくか？ 団塊世代やもっと若い世代をも巻き込んだ『地域の力』をどう集約して未来に臨むか？ これからは、そういう視点で介護や福祉を進めていかなければいけない時代です」

その象徴として、建物1階の庭に面した特等席には広々と明るい多目的ホールが設けられました。窓を全面開け放せば庭とつながる大空間に変わります。

「例えば夏祭りのような、入所者と地域をつなぐイベントに使うのもいいし、災害時の支援の拠点として機能することも視野に入れています。今年は防災訓練を、地域の方々と一緒にやってみたいですね。例えば『炊き出し訓練』なども実際に緊急時を想定してやってみる。共に汗を流し、最後に同じ釜の飯を食べるとか…さまざまな地域の期待に応えるイベントやプログラムを提案して、楽しみながら大切なことをお互いに学べたら嬉しいですね。」

機会を前向きに捉え、どんどん活用していこうとする平川施設長のパワーと心意気に思わず引き込まれます。七里ホームのスタッフは、既に市内で実績を積んでいる同法人施設から異動したベテランと新卒の若い力や意欲のある熟年世代です。また団地内にある施設として「まだ少しだけ働きたい」と考える定年後の住人の職場でもあります。重い障害を残した高齢者のご利用者に対し、ご本人と職員の双方に役立つ「持ち上げない介護」への取り組みも始まります。常勤医師の配置も実現した敬寿園七里ホームがこれから豊かな地域づくりの担い手として頼もしい存在になるのは、そう遠くなくさそうです。



▲「皆さん、ぜひボランティアにいらしてください」と平川汀子施設長。「お料理が好き、お世話が好き、どんな方でも構いません。地域の方々が力を出し合って、その地域の助けが必要な方々を支えるって素敵な仕組みでしょう」



▲1階南面に広くとった多目的スペース(写真上)と、ベンチもあるその前面の広場(写真下)は、窓を開放してつなげると一大催事空間に。ここで地域ぐるみの活動が行われる



▲建築事業部進藤守所長(写真上)と細田栄治係長「過去にいくつもの施設起ち上げに関わってこられた施設長からは、厳しい要求も多々いただき必死で応えました。さすが現場ならではの声と感嘆。またひとつ勉強させていただきました」(進藤所長)



▲落ち着いた清潔感あふれる特養の居室。「残念ながらユニット型に死角はつきものですが、どうしたらその死角が少なくなるかに腐心しました」と平川施設長

お客様の
ご紹介

子どもたちの安全と豊かな勉学環境を叶えた新校舎 学校法人 浦和ルーテル学院様



▲チャペル・教室棟とスポーツ棟からなる堂々たる校舎。口の字状に建てられた内側は中庭になっており、「どこにいても光と風を感じる校舎」が実践されている



▲東海林 敏雄 理事長



▲藤倉 三三男 校長



▲小澤 聖一 事務長

※掲載内容（所属・役職名等）は2015年3月取材時のものです。

1953年に「神さまが選び、与えてくださった」という駒場（さいたま市浦和区）の地にてわずか4名の児童で開校した浦和ルーテル学院。以来キリスト教教育の私学として、温かな、まるで家族のような校風を旨として営まれてきた同校ですが、昨年12月、懐かしの地を後にし、浦和美園に新築移転を果たしました。校舎の老朽化と耐震上の問題が発端となったこのたびの移転工事は、戸田建設と松永建設のJV（共同企業体）事業として手がけさせていただきましたが、同時に弊社社長の母校ということもあり、大変感慨深いものとなりました。

完成した新しい学び舎は地下1階から地上4階までの5層建築。スクールカラーであるチョコレートブラウンの校舎が、浦和美園の自然豊かな田園地帯に溶け込んでいます。南に向けて8m



▲「最大限環境に配慮しました」とは小澤聖一事務長。エアコン等をなるべく使わなくても心地よい勉学環境を整えた。遮光ルーバーで太陽光を調節できる体育館もエコの観点が関わっている



▲通年使用可のプールも、ガスボイラーだけでなく蓄熱機器を併用するなど、環境に配慮

ほどゆるやかに下がっていく敷地の勾配形状を生かし、どこにいてもさんと降り注ぐ太陽の光と、心地よく抜けていく風を感じられるように設計されています。

中でも目を惹くのは清らかな美しさを放つ礼拝堂です。2階から4階までの三層分が吹き抜けになった開放感あふれる造り。その正面の壁一面にガラスが十字にはめ込まれ、巨大な輝く十字架となって陽射しが降り注ぎます。「実は設計を手がけた白滝章裕氏は本校の卒業生で、私も教員として幼少の頃から彼を見てきました。開校以来、悲願だったにもかかわらず礼拝堂を持つことが叶わなかった我々の想いを汲んで、きっと渾身の力を注いでくれたのでしょう」と東海林敏雄理事長は顔をほころばせます。

それもこれも、私学ならではの小中高12年一貫教育の賜物と理事長は説きます。「私たちは少人数体制で児童生徒一人ひとりを12年かけ見守っていきます。性格も持っている力も個性も、子どもたちのすべてを知っている。伸ばすべきところは伸ばせませし、風通しのよさを生かして何か問題があってもすぐに、そして温かく手を差し伸べることができる。進学校やブランド校にはないルーテルらしさ——『善い人間』を育むことを大切にする我が校を誇りに思っています」

理事長の言葉の通り、校内で行き交う児童生徒たちはみな、取材陣を見ればすかさず「こんにちは！」。元気のいい挨拶を欠かしません。真摯で誠実な教育が行われている様子が伝わってきます。また、旧キャンパスの何倍も広くなった校庭では、その喜びを全身で表現するかのように伸び伸びと部活動に勤しむ児童生徒たち。新校舎のそここに子どもたちの輝く笑顔がありました。



▲同校では信仰そのものよりも大切にしていることが、藤倉三三男校長によれば、それは「祈り」と「祈る時間」だそう。「人間誰しも壁や曲がり角にぶつかります。そのとき祈ることで心を静めることができれば必ずや道は開けます。祈りは自分のためにあると気づいてもらえれば、私たちの教育は成功したと言えます」



▲ユニークな量数きのスペースで「寝転がって本が読める」と児童生徒に大人気の図書館。「リラックスして読書できる環境が本好きを育てる」は東海林理事長の理念



▲旧キャンパスのおよそ5倍となる約9千坪の敷地を得た同校。校舎に隣接する広いグラウンドは長いこと生徒たちの念願だった



▲建築事業部 大里祐太社員
「戸田建設と松永建設のJVにより、両社の強みを合わせることで、相乗効果が生まれました。お客様に喜んでいただいたことが何よりの喜びです」

岩槻名所めぐり

第2回「慈恩寺」 岩槻区慈恩寺139 (東武野田線・東岩槻駅よりバス)

「さいたま市岩槻区慈恩寺」とそのままだ名にもなるほどに、地域の人々に愛され親しまれてきた慈恩寺。またの名を華林山最上院ともいい、天長元年(824年)に慈覚大師によって開かれた岩槻の誇る古刹です。それだけでも由緒あるお寺ですが、もうひとつ、知る人ぞ知る訪問スポットがあります。それは、あの『西遊記』でおなじみの三蔵法師のモデルである唐の時代の名僧、玄奘三蔵の霊骨がここに奉安されているのです。花崗岩でできた十三重の塔「玄奘塔」がそれ。
なぜ玄奘三蔵の霊骨が慈恩寺に？

由来を知ると慈恩寺のつむいできた長い長い時への敬意が深まります。
玄奘三蔵は『西遊記』にもあるように無事天竺への旅を終えると、仏教の経典を唐に持ち帰り、それを翻訳する大事業を始めます。その拠点としたのが「大慈恩寺」。そうです、慈恩寺の名はここからつけられました。天台宗山門派の祖として名高い平安時代の僧、慈覚大師(794~864年)が遣唐使の一員として唐に渡り、遊学した先のひとつが大慈恩寺で、帰国後、生まれ故郷の下野国(栃木県下都賀郡)に近いこの岩槻の地に寺を開山するに



あたり、大慈恩寺にちなんで「慈恩寺」の名を付けたとされています。第二次大戦のさなかに、南京を占領していた日本軍が石棺に収められた玄奘三蔵の頂骨を発見、その後紆余曲折があったものの、昭和19年にゆかりの寺ということでここ慈恩寺に霊骨は奉安されることとなりました。
また慈恩寺は「坂東三十三ヶ所観音霊場」のひとつであることも有名です。源頼朝の厚い観音信仰にもとづいて、鎌倉時代に始まったとされる観音巡礼において、慈恩寺(木造千手観世

音菩薩が本尊)は第十二番札所となっています。坂東三十三ヶ所観音には、ほかに浅草の浅草寺や、あじさいの名所として有名な鎌倉の長谷寺、日光の中禅寺などがあり、多くの参拝客でにぎわいます。
天保7年(1836年)に惜しくも焼失したところを天保14年(1843年)に建立された寄棟造りのご本堂には、見事な天井絵や彫刻も。ぜひ参拝し、心安らぐ時をお楽しみください。
現在、弊社にて改修工事を施工中です。完成をお楽しみください。

松永建設では、お客様に感動していただく建物・工事をご提供するために、最新の技術・工法を取り入れて日々進化してまいります。

松永建設の「テクノロジー」の一部をご紹介します。

●計画段階において立体画像でご案内 BIMの活用で建築計画をご提案

コンピュータ上に作成した3次元のモデルに、使用材料や性能、コストなど建物のあらゆる情報を盛り込んで「見える化」したものがBIM(Building Information Modeling)。企画から設計、施工までのすべてのプロセスを管理すると共に、使用材料を含め、お客様のご希望に合わせた立体空間を早期にご提案いたします。プロジェクトの早い段階から、お客様と完成イメージを共有し、より満足いただける建物を目指します。



●コンクリート乾式吹付工法(コンクリートの維持・補修)

延命化社会に向けての大きな一助として、インフラが老朽化する前に補修・補強を施す新たな工法が「コンクリート乾式吹付工法」です。ポリマーセメントを高速・高圧で吹き付けるその画期的な工法は、橋梁基部、トンネル断面、高架橋、下水道など既設のコンクリート構造物の断面修復に力を発揮。今あるものを、安全・安心なまま延命が図れます。耐震補強としても有効です。また、この工法の優れた施工性は、コスト削減と工期短縮といった付随的なメリットも生み出します。



新入社員紹介

松永建設グループに新たに加わった新入社員をご紹介します。



前列左から
建築事業部
赤岡 夏樹
建築事業部
浅井 友
土木事業部
伊丹 健一
建築事業部
金口 明夫

建築事業部
菊地康一郎
建築事業部
栗原 恵太
総務部
佐藤 藍美
営業本部
添田 祥耶

後列左から
建築事業部
高崎 基
総務部
富樫 香
建築事業部
中里 優
建築事業部
星野 達也

建築事業部
山口太馨輝
うらら岩槻
小山 勇樹
うらら岩槻
杉川 莉奈
うらら岩槻
関口 美優

松永建設のラジオCMが新しくなりました!

「感動〜!創造〜!松永建設!」でお馴染みの、弊社のラジオCMが新しくなりました。そのCMの声の主は、松永社長及び51期表彰を受けた優良表彰社員9名です。弊社社員が日替わりで熱い思いをお届けしています。ラジオお聴きの際は、是非チャンネルをNACK5(79.5MHz)にお合わせ下さい。

1、3週

月曜	代表取締役社長	松永大祐
火曜	営業グループ グループリーダー	中山雅央
水曜	土木事業部 主任 土木事業部	後藤淳宏 大栗和太
木曜	営業企画室 統括グループリーダー	須藤敏光
金曜	総務部	亀田絵里

2、4週

月曜	代表取締役社長	松永大祐
火曜	ABホームグループ グループリーダー	東正行
水曜	土木事業部	磨谷整
木曜	不動産営業部 参与	松永隆雄
金曜	再生骨材工場 工場長	関根幸男



FM NACK5 月曜~金曜の毎朝8:30
月曜~木曜『WARMING-UP MUSIC』内の交通情報
金曜『大野勢太郎 HYPER RADIO』内の交通情報

平成27年1月30日 於：大宮清水園

故・松永 功 (弊社代表取締役会長) 「偲ぶ会」ご報告



▲左より、偲ぶ会で献花を賜った真下恵司・県建設業協会会長、古川俊治・参議院議員、山崎拓・元自民党副総裁

▲1800人もの方々に弔問いただきました

昨年12月に死去した松永功・弊社会長「偲ぶ会」を1月30日、大宮清水園にて執り行いました。広く政財界より1800人もの方々のご参列を仰ぎ、故人を偲んでいただきましたことに深く感謝を申し上げ、ここに報告させていただきます。

去る1月30日、さいたま市大宮区の大宮清水園にて、弊社代表取締役会長松永功「偲ぶ会」を執り行いました。

40余年にわたり松永建設を率い、また会長、会頭として埼玉県商工会議所連合会やさいたま商工会議所の活動にも勤しんできた故人。午前11時半より執り行われた偲ぶ会には、生前会長と親交のあった政財界の方々が多数参列していただき、全身全霊をかけて地域経済界を牽引し続けた会長との別れを惜んでくださいました。

* * *

開会～黙とうのあと、名誉葬儀委員長を務めてくださった上田清司・埼玉県知事は、会長の人となりや実績などを紹介くださいました。「本県経済の屋台骨をしっかりと支えてくださった大変心強い存在でした。地位があろうがなかろうが、人と接する態度が変わらない謙虚なお人柄でした」

続いて葬儀委員長を務めてくださ

った清水勇人・さいたま市長からは、「いつも郷土を思い、地域経済の振興、発展に全力で取り組まれ、粉骨砕身の精神で走り続けられました」、副葬儀委員長を務めてくださった佐伯鋼兵・埼玉県商工会議所連合会会長は「率先して地域経済の発展に取り組み、多大な貢献をされました」との追悼のお言葉を頂戴いたしました。

かつてプリチストンタイヤで共に働き、会長を「生涯の友」と慕ってくださった山崎拓・元自民党副総裁より弔辞を賜りました。大幅な抜弁となりましたが以下に山崎氏の弔辞をご紹介します。

「松永君との出会いは1959年の春、プリチストンタイヤの入社式でした。新入社員76人の中で、君と私が特別に馬が合ったのは、共に学生時代に柔道部に所属していたせいでもあったと思います。研修期間中、毎晩のように久留米の街に繰り出しては酒を酌み

交わし、お互いの生い立ちや生涯の夢を語り合ったものです。交わる人すべてに幸せを与えてくれた松永功君、本当にありがとうございます」

古川俊治・参議院議員からは「偉大なる道しるべ」、真下恵司・県建設業協会会長からは「建設業界と地域の発展に貢献されました」、桑野秀光・曙ブレーキ工業名誉相談役からは「冴え冴えとした冬空に、流星が大きな功績を残して消え去りました」など、心に深く刻まれるお言葉を頂戴し、社員一同感動の気持ちでいっぱいになりました。

* * *

ご多用中にもかかわらず参列してくださった皆様方、また故人の旅立ちをさまざまな形で悼んでくださった方々に対して弊社社員一同、心より厚く御礼申し上げます。会長がその生涯を社業と地域の発展に捧げ、悔いなく走り抜くことができたのは、皆様方とのご



▲名誉葬儀委員長を務めてくださった上田清司・埼玉県知事



▲葬儀委員長を務めてくださった清水勇人・さいたま市長



▲副葬儀委員長を務めてくださった佐伯鋼兵・県商工会議所連合会会長



▲弔辞を賜った山崎拓・元自民党副総裁

縁、ご厚情の賜物に相違ありません。社員一丸となり会長の志を引き継いでまいります。今後ともご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



父の死に寄せて

～良い縁が良い縁を呼ぶ、豊かな人生～

上記の記事でもご報告させていただきましたが、去る12月、弊社会長で父の松永功が78歳で永眠いたしました。1月30日の偲ぶ会には、父が浅からぬご縁を頂戴した多くの方々にご参列をいただき、またその死を悼んでいただきまして誠にありがとうございました。社業においても「人の生」という点においても後を託された者として、万感胸に迫る時間を過ごさせていただきました。心より御礼申し上げます。

1800人もの方々が父を偲び、別れを惜んでくださっている光景を前に、正直なところ驚きを禁じ得ないと同時に、たいへん誇らしい思いが湧き上がりました。「ああ、父はこんなに

も大勢の方々と交わり、人生を豊かなものにしていたのだなあ」と……。皆様お一人おひとりと言葉を交わし、お礼を申し述べることはできませんでしたが、献花を手に祭壇を訪れてくださった方々の顔ぶれを見るにつけ、懐かしいお顔、お会いしたことこそなかったものの生前、父がしきりと交遊を語っていた方々……。胸に懐かしい思い出やさまざまな想いが去来しました。

その間、ずっとある言葉を噛みしめていました。それは、父が事あるごとに語っていた人生訓の言葉です。「縁尋機妙・多逢勝因(えんじんきみょう・たほうしょういん)」——少々長くなりますが、ご紹介いたします。

「良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していくさまは実に妙なるものがある(縁尋機妙)。良い人に交わっていると良い結果に恵まれる(多逢勝因)。人間はできるだけ良い機会、良い場所、良い人、良い書物に出会うことを考えなければならない」

東京外語大で中国語を学び、論語などの古典に親しんだ父は、漢詩、故事成語や格言の類を愛していました。この言葉も父が座右の書としていた昭和の陽明学者、安岡正篤氏の著書に紹介されていたものです。

「縁は積極的に紡いでいかなければだめだ。きちんと正面から相手に向き合い、相手のことを思いやることではじめて“縁”となる」という父の教訓

が胸に強く響きます。ご参列くださり、在りし日の父を偲んでくださる皆様方のご尊顔を拝しながら、改めて父が実に有為で大切なことを教えてくれたことを痛感しました。

弊社は素晴らしい人脈、素晴らしいお客様に恵まれております。私はいくらから、皆様から信頼していただけるために、感動を創造する建設会社として誠心誠意、粉骨砕身の精神で邁進して参ります。

父、松永功亡き後も、どうぞ変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくご依頼申し上げます。